

岩手医科大学歯学会第78回例会抄録

日時：平成27年2月28日(土)午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室 (C棟6F)

一般演題

演題1

表情筋に分布する下歯槽神経の枝

○藤澤 慶子, 島田 崇史, 小幡 健吾,
鈴木 莉絵, 安藤 禎紀**, 藤原 尚樹*,
藤村 朗**

岩手医科大学歯学部2年, 解剖学講座発
生生物・再生医学分野*, 解剖学講座機能
形態学分野**

平成26年度歯学部2年生の臨床解剖実習において下顎骨外斜線上から出現した神経が大・小頬骨筋に分布する一例に遭遇した。本症例は年齢92歳, 男性(死因: 急性下肢動脈閉塞症)で, 左側下顎骨離断の際に外斜線上の孔から出現した太さ約1mmの神経が顔面静脈の浅層を前上方に走行し, 大・小頬骨筋の筋腹後縁下方から侵入していた。すでに耳下腺を除去する際に顔面神経の剖出を終え, 耳下腺神経叢を除去していたため, 顔面神経との吻合状況は不明であった。本神経が下歯槽神経の枝であることは確認できたが, 下歯槽神経の枝が表情筋の特に上顎部に分布するとの記載は我々が渉猟した成書の中には認められなかった。また, 表情筋についての感覚神経の分布についての記載も確認できなかった。本神経が筋肉の感覚神経として分布しているのであれば, 大・小頬骨筋の位置から考えて上顎神経の眼窩下神経の分布が妥当と考えられた。すなわち, 本神経が大・小頬骨筋に分布することはありえないことになる。このように発生学, 生理学的に考えると不合理な構造が現実には確認できており, 表情筋の感覚神経の分布に関する研究が行われていなかったものと考えられる。本神経が下顎神経の頬神経の走行異常を想定して文献検索を行ったが, 上條の口腔解剖学には頬神経前群は頬筋上で顔面

神経と吻合, さらに口角付近ではオトガイ神経, 眼窩下神経と吻合する枝があることが記載されている。しかしながら機能に関する記載はなく, これらの吻合したものが表情筋に入るという記載もない。また, 骨格筋における筋紡錘, 腱器官は「多分表情筋ではない」程度の記載しか見られず, 表情筋における筋紡錘, 腱器官の存否も不明瞭である。さらに, 表情筋の腱の存否についても確定的な記載はみられないことから, 来年度から開始される基礎科学演習の時間を利用してこれらの疑問点を考察したいと考えている。

演題2

智歯周辺に検出された過剰埋伏歯について

○東海林 理, 泉澤 充, 佐藤 仁,
高橋 徳明, 星野 正行, 大堀 壮一,
定岡 哲哉, 小豆嶋正典

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面学講座歯
科放射線学分野

目的: 智歯周辺に発生する過剰歯は, 臼後歯または臼旁歯が一般的である。しかし智歯が正常に萌出することすら少なくなってきた近年において, 智歯周辺における過剰歯の発現はまれである。そこで今回エックス線検査で智歯の周辺に偶然検出された過剰埋伏歯についての検討を行った。

対象・検討項目: 2011年6月から2015年2月の間に, 当科においてパノラマエックス線装置(パノラマ), またはコーンビームCT装置(CBCT)で撮影を行い, 智歯周囲に過剰埋伏歯が検出された25例を対象とした。これらについて, 発生側, 1例あたりの検出本数, パノラマでの検出の可否, 埋伏歯の存在方向, 智歯に対する埋伏歯の存在位置について調べ, 集計を